

一ツ橋大学用校講座： 49. 9. 19. (木) 6:00 ~ 7:30
於一ツ橋講堂

「原子力発電の功罪」

都留重人 (一ツ橋大学長)

原子力発電の功罪と題してが、学内的には「原子力発電の費用便益の分析について」といふのがよいと思う。

この問題をとりあげた理由は原子力発電(核分裂型)が万全の安全性が得られていない現在の段階においてニヒリと推進すべきか否かの決定を国民全体が迫られている時であると思う。若何ぞは原子力船「あつ」が設計ミスのため太平洋上に漂流している状態である。この事を知りながら原子力に関与した設計上のミス事故が起った時、単に科学的なミスによる以上に大きな影響を及ぼすものである。

現在、政府は考えている原子力発電計画は昭和60年、6,000万KWの設備容量を建設する事になっている。ちなみにこの6,000万KWの設備容量は昭和45年の1年間の設備容量に相当するものである。

もし、万一、何時までも原子力船「あつ」で起ったような設計ミスが、ある事故が起るとしたら日本全国にわたってその6,000万KW相当の原子力発電は住民によって完全に停止されるであろう。その混乱は想像を絶するものである。

しかしながら政府では原子力発電による60年、6,000万KWの